

誰一人取り残さない 情報発信のサイクルを目指して

第7回 教育現場でのUDフォントの活用(続編)



中学校教育におけるUDフォント

1月号では、12月16日(木)に玉造中学校1年生を対象に、外部講師を迎えてのプレゼン作りの心得とノウハウを学ぶ授業について、お伝えしました。その後、各チームでは自身が暮らすエリアについて、プレゼン資料にまとめました。各チーム、授業で学んだことを資料に反映できましたので、1月28日(金)に、なめがたエリアテレビでプレゼン発表を行った代表2チームのプレゼン資料についてご紹介します。



撮影風景

Aチーム

なぜ、鯉パクンを作ったか?
~こいこいの従業員の方に聞きました~

- お年寄りにも、若者にも、観光客にも人気が出るものは何か!?
- 行方市特有のものは何か!?

↓

鯉を使ったバーガーはどうだろうか!!

ということで誕生したそうです。

Before

なぜ、鯉パクンを作ったか?
~こいこいの従業員の方に聞きました~

- ✓お年寄り、若者、観光客にも人気が出るもの!?
- ✓行方市特有のもの!?

↓

鯉を使ったバーガー誕生!

After

Bチーム

場所: 茨城県行方市羽生721
電話: 080-9654-5678

雪見堂

夏...300食
冬...50食
ロッキン(イベント)...1500食

Before

雪見堂

場所: 茨城県行方市羽生721

夏...300食
冬...50食
ロッキン(イベント)...1500食

After

プレゼン資料の途中経過のBeforeと、完成したAfterを見比べてみましょう。Afterに編集する手順は、Presenterの授業で学んだ次の手順で進めていきました。

- ①UDフォントにする
- ②スライドのテキスト情報の優先順位をつける
- ③優先順位の高い順番に目に入ってくるように、フォントの太さや大きさを調整する
- ④読み心地が悪くなっていれば、行と行の間を調整する

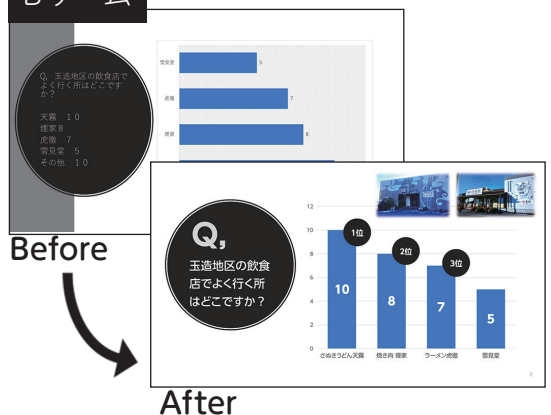
Aチーム

Beforeでは、文字の大きさの工夫はありましたが、Afterでは、UDフォントのゴシック体に変更して、小さい文字も誤認せず読めるようになりました。また、行と行の余白をしっかりと取ることによって読心地もよく、内容が順序立てて理解できるようになりました。

Bチーム

紹介したい「雪見堂」の店舗名が、まず目に飛び込んできます。また、目線を自然に下に移動すると、詳細が読めるようになっていきます。とても情報が整理され、分かりやすいスライドになりました。

Bチーム



Bチームのグラフのスライドでは、Beforeは、文字が小さくて読みにくいのに対して、Afterは、数値を大きく太くしていることで、何票獲得したのか一瞬で理解できます。また、特に注目してほしい情報に順位をつけることで、より伝わる資料になりました。また、よく見ていただくところなのですが、円形が楕円から正円になっていきます。図形で円形を利用するときは、正円にすることでまとまった感が出ます。もし、読者の皆さんもプレゼン資料を作ることがあれば、参考にしてみてください。

編集協力・株式会社モリサワ